

学校法人松原学園幼保連携型認定こども園ひばりが丘幼稚園
令和5年度「学校評価」実施内容報告

令和5年度「学校評価」の実施内容を下記の通り公開します。

I. 実施概要

・対象者内容 令和5年度在園児保護者及び職員

対象者		対象者数	回収率	回答率	実施期間
保護者	全学年	170名	135名	79%	令和6年2月5日～2月13日
職員		28名	28名	100%	令和6年2月5日～2月13日

<p>◎保育・教育目標『ひとりあるきのできる子ども』</p> <p>じょうぶな子— 何でも食べて 元気に遊び 健康な心と体を育てる</p> <p>かんがえる子— 考える喜びを知り創造性のある実践力を身につける</p> <p>やさしい子— 仲良く力を合わせ思いやりの心いたわりの気持ちを育てる</p> <p>がんばる子— 元氣よく挨拶ができ 最後までやり遂げる気持ちを育てる</p> <p>はたらく子— 土に親しみ勤労の喜びと手伝いの出来る態度を身につける</p> <p>◎令和5年度職員の重点事項</p> <p>『一人ひとりの育ちに寄り添い、保護者との安定したかかわりの中で成長を育む』</p> <p>〈乳児組 重点事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達段階を考慮した保育を通し、信頼関係を構築していく。 <p>〈幼児組 重点事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び込める環境を設定し、継続性のある遊びの中で経験を広げていく。
--

II. 保護者アンケート

※質問について、あてはまると思われる個所に○印をつけてください。

A：そう思う B：やや思う C：あまり思わない D：思わない

【園の運営について】

	内 容	保護者				職員			
		A%	B%	C%	D%	A%	B%	C%	D%
1	園では保育・教育方針をわかりやすく伝え、子どもの実態に沿った保育・教育課程が組まれている。	81	19	0	0	44	52	4	0
2	園は一人ひとりの育ちや個性を尊重し、子どもの心に寄り添った適切な保育を心掛けている。	72	26	1	1	64	32	4	0
3	園は生活の中で、挨拶や身の周りの始末など、基本的な生活習慣を身につけさせている。	88	10	2	0	84	16	0	0
4	園は保護者からの相談に対し、誠意のある対応に努め信頼関係を築くことに努力をしている。	78	18	4	0	84	12	4	0
5	園では子どもの怪我や病気に対して、適切に対応し、そのことを職員間で共有している。	91	7	2	0	52	48	0	0
6	職員は言葉遣い・服装等、子どもの手本となるように意識して努めている。	89	9	2	0	32	68	0	0
7	職員同士、円滑なコミュニケーションの下、楽しい雰囲気の中で保育に従事している。	80	17	3	0	48	48	4	0
8	前年度のアンケート結果を意識し、日常の園生活にいかしている。(進級された方のみ評価)	80	17	3	0	40	56	4	0

【保護者の方が感じられていることについて】

	内 容	A%	B%	C%	D%
1	親子で早寝・早起きをすることについて意識して取り組んでいる。	72	24	4	0
2	朝ごはんを食べよう意識して取り組んでいる。	89	10	1	0
3	お子さんと挨拶を交わすことを心掛けている。	73	24	3	0
4	子育ては楽しい。	83	16	1	0
5	園の教育保育活動をとおして、一緒に子育てしようとしている。	87	12	1	0

Ⅲ. 総合的な評価

『ひとりあるきのできるこども』<じょうぶな子・かながえる子・やさしい子・がんばる子・はたらく子>を保育・教育目標とし、乳児組、幼児組共に日々の保育へ精進してきた。幼保連携型認定こども園として、早くも8年が過ぎようとしているが、新型コロナウイルスも5類感染症へ移行されたこともあり、以前の様な園の運営へと戻しながら充実した園生活へと臨んできた。しかし、今年度は記録的な猛暑により、プール遊びを始め屋外での活動では、常に熱中症アラートの機器を活用しながら、また併せて水分補給や園児の体調管理に十分留意しながらの園生活に気苦労の日々であった。子ども夏祭りの開催においても、出来るだけ日陰となることを拠点に、会場づくりを急遽変更する等、環境作りに最新の注意を払ってきた。アンケートの自由に記載にも、これに関するコメントを頂いたが、年々生じる新たな諸問題に柔軟に対応し、何よりも安全で安心できる園生活の構築が最も重要と考える。

また、今年度は家庭での生活習慣について調査を行ったが、何れの項目においても、A（そう思う）B（やや思う）の回答が90%を超える肯定的な結果に、しっかり取り組んでもらえていることが伺えた。しかし、全体的な回答率においては、昨年度92%に対し今年度は79%という結果であった為、より一層高い関心を持ってもらえるよう啓発をしていきたい。

保護者よりご感想、ご意見、更には労いの言葉も頂き多くの方々に支えて頂いていることを実感することができ、職員のやりがいや意欲にも繋がるものだが、謙虚さをもって益々精進していきたい。

Ⅳ. 今後の課題

年度末に各学年毎、教育課程を見直し次年度に繋げていくため一年間の振り返りを行っているが、併せて本調査を下に、職員の重点事項に掲げた内容についても検証し検討課題を見出してみた。

設問の1. 5. 6. 7. 8項において、A「そう思う」の回答に保護者と職員では大きな差が生じる結果であった。職員側のB「やや思う」の回答が多く、自分に厳しい評価とも捉えられるが、A「そう思う」の回答が高まるように、園全体としては勿論のこと、個々の職員が意識と自覚をもって取り組んでいくことが一つの課題として挙げられる。

また、今年度は、児童発達支援、特別支援教育のための研修にも取り組んできたが、今後も充実させていくことを一つの課題として次年度に向けて取り組んでいきたいことである。